様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ７ 月 １０ 日現在

機関番号：３２６１７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2019
課題番号：１５Ｋ０２８６９

研究課題名（和文）久米島の明治大正期の郷土史および民俗資料の整理と研究

研究課題名（英文）The Study and arrangement on the folk materials during the Meiji and Taisho eras in Kumejima ,Okinawa prefecture

研究代表者
小川　順敬（OGAWA, TOSHIYUKI）

駒澤大学・総合教育研究部・教授

研究者番号：００３３８３０２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の目的は、明治から大正にかけての沖縄県久米島で成立した民俗資料の整理と研究をおこなうことにある。これらの資料は、今回新たに発見されたものがほとんどで、これまで久米島の明治期地籍図から大正期に計画された県史や島尻郡地誌資料などの元資料など多岐にわたる。
　点数が非常に多い本資料の、分野別資料の目録化をまず優先し、そののち、地籍図、模合、紬、などのいくつかの資料の成立と内容について考察を試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　沖縄における地方民俗資料、近代史料は、戦火で失われたものがほとんどであるが、こと戦禍を免れた久米島に関しては未だに一般家庭に保存されている場合も散見される。しかし、こうした資料も、年月の経過とともに散逸する可能性が高く、早急な文書の蒐集、保管が必要とされている。
　本研究は散逸直前の資料を整理し、今後の沖縄民俗研究、近代史研究に応えるための基礎資料の作成に多くの時間を割き、目録の完成をめざした。

研究成果の概要（英文）：　The purpose of this study is to arrange the folk materials which have been collected in Kumejima of Okinawa prefecture, during the Meiji and Taisho eras and to organize and to make the list of the materials. There are newfound materials ,cadastral maps from the Meiji period,the source materials of history of OKINAWA prefecture and SHIMAJIRI county and so on.
 In addition, I clarified the sevral issues, the cadastral maps from the Meiji period, MOAI organaizetion (mutual help organization),KUMEJIMA Pongee (KUMEJIMA TUMUGI) etc.

研究分野：民俗学

キーワード：沖縄研究　久米島　明治・大正期民俗資料　紬資料　地籍図

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

久米島における歴史資料や民俗資料の調査は 1979～1981 年度には法政大学、1999～2001 年度には京都大学による、科学研究費補助金調査が行われ、島内の有力家系からそれぞれ相当数の文書資料を発見している。第二次大戦時の戦火を免れた久米島では、県内他地域とは比較にならないほど多くの文書が残存していたからである。

研究代表者は、これまで 1979 年以降久米島の村落調査を行い、18 世紀以降も様々な家系資料が作成、残存していることを知り得ていた。このため、上記の大型科研で蒐集されなかった家譜類に限って 2010 年から科学研究費による調査によって保管作業を行った。この際、当時の科研調査の目的からは若干調査目的を異にした資料を発見した。これは沖縄県史の元資料となった村誌資料類、また島尻郡誌作成のために蒐集・作成された資料類、またこれ以外の雑多なメモ資料などの民俗資料などであり、調査の過程で一部久米島博物館への寄贈をお願いすることになった。

こうした資料類は保管も整理されぬままとなっていたため、一部大学研究費等で整理目録化を始めていたが、当初から資料点数も多く、時間と費用がかさむため今回の科学研究費に応募し地元久米島博物館の協力を得て、資料の整理と保管、並びに目録整理をまずは優先的に行う事とした。調査開始当初は、民俗資料は明治から昭和にかけて久米島具志川村の役場書記であった仲村渠昌清氏が残した資料、また同じく久米島具志川村の山里家資料の 2 件を対象として調査研究を開始したが、その後同村山城家資料が発見された。こちらも劣化の進む資料であったため、保管整理を主として研究目的に追加した。

また、研究着手後、旧久米島具志川間切（村）の明治期地籍図が 114 点残されていたことが判明した。その他同時に確認された 100 点以上の地籍図関係資料とともに対象資料として追加することとした。それは、明治期地籍図は地理学や行政上の調査研究課題に応えるばかりでなく、民俗資料としても有用であると判断したからであるが、何よりも、資料そのものの劣化が激しく緊急に保管整理を必要とすると判断されたため、こちらの資料も調査対象として取り扱うこととしたのである。

この結果、対象とする資料点数が当初計画から３倍近く増える結果となり、研究の遅延が生じることとなった。

一方、当初、佐賀県の祐徳稲荷神社に保存されているという鍋島直彬の沖縄関係資料に久米島関係書類が残されているとの情報があったため、当時の沖縄波上宮宮司のご紹介で研究当初から調査を予定していた。しかし、2016 年の熊本地震のため仲介者との相談の上、この調査は中止することとなった。こちらの調査に関しては、当初から波上宮社史調査室の新垣裕之氏からの情報とご協力を仰いでおり、調査１年目に波上宮との連絡調整をお願いしていた。なお、当初この調査にあてる予定であった費用は上記地籍図調査に充当することとした。

２．研究の目的

さて、上記の通り研究開始時の状況のもと、対象とするこれらの資料に対して本研究が目指したのは次の問題である。

前述のように、相当数の民俗資料、近代史資料が未整理状態で残されている以上、まずは現段階でこれ以上の資料の劣化と散失を防ぐために、出来るだけ早く資料の保管と整理をおこなうことを最初の目的とした。

次ぎに、こうした多様な資料の目録整理を確実に行う事が必要であった。本研究で取り扱う研究対象と、研究領域は余りにも広く、一人研究代表者の手に負えるものでない。今後、こうした諸分野の研究に応えるためにもまずは資料の整理と目録化を優先した。使いやすい資料として目録を整備することが要請されると判断したからである。

次いで、資料中研究代表が関心をもったいくつかの問題を明らかにしようと試みることとした。この点に関しては研究成果のところで触れたい。

３．研究の方法

すでに駒澤大学の特別研究助成によって、仲村渠昌清資料のうち、特に郷土史関係資料２冊を影印版として報告書を作成していたが、これは仲村渠昌清資料のごく一部であり、その他の民俗調査資料の写真撮り、内容整理は一部作業に着手し、おおかた作業途中であった（『仲村渠昌清資料集　郷土史関係資料』平成 26 年駒澤大学特別研究助成により報告書）。

とりわけ仲村渠昌清資料については、模合（頼母子講）関係の資料が多数残されていたため、これの内容を整理する目的で、久米島出身の琉球大学名誉教授である仲地宗俊氏を調査協力者としてお願いした。

ただし、調査開始当初はその方針で１年目は写真撮りと内容検討に主に時間を割くことになったが、調査開始年に前述の明治 36 年の沖縄県臨時土地整理事務局作成の地籍図が、久米島町役場から久米島博物館に移管され、整理もされずに残されていることが判明したため、仲地宗俊氏との調査は、２年目以降地籍図調査に主にあてられる事になってしまった。仲村渠昌清資料中の多くの模合関係資料は、順調に写真撮りが進み、写真でのみ資料検討できたため、久米島での調査を地籍図調査に向けることができたからである。

模合資料は、今回は目録化のみ目的として、時間の関係で内容分析は先送りとした。

このほかにも多様な資料が仲村渠昌清資料には残されているが、注目すべきは久米島紬関係

の墨書き資料１点と、明治から大正期にかけての聞書資料２点が保管されていた。こちらは紬研究を専門とする久米島博物館の宮良みゆき氏を調査協力者に依頼した。また墨書き資料の翻刻に当たっては前述の新垣裕之氏を調査協力者として宮良みゆき氏の整理、研究の協力に当たっていただく事とした。

調査当初から目的としていたのは、山里家資料である。これらの資料は君南風（チンベー）と言われる、久米島の最高司祭者が管理する拝所および祭殿の戦前建て替え記録である。このほかにも山里家資料は昭和期の卒業証書などの教育関係資料ほか多様な資料が残されており、保管作業は行っている。しかしながら、こちらも資料点数が非常に多く、また、戦後資料が多数のため、時間の関係で君南風関係資料のみに限定して目録化を行い、今回はすべての資料の目録化を行う事は出来なかった。

次ぎに山城家資料であるが、こちらの主要な資料は、明治 20 年から数年の、旧具志川間切仲地村（現久米島町字仲地）の久米島番所への申請書の村保管の控え、備忘録集である。この資料は当初から相当の傷みがあるものの、整理が不可能な状態ではなく、まずは文書の整理を行い、保管を行った上で翻刻報告を計画した。このほかに、島番所に保管されていたと推定される冊子体の墨書き文書があるが、こちらは虫食いが著しく、また湿気により全体として資料が密着しており、まずは乾燥と防虫の処理を施し保管することを優先とした。他に、明治期から大正期の卒業証書などの教育関係資料があるがこちらは保管整理だけを行い、目録化はできなかった。

なお、山城家資料は、科学研究費申請時の年に発見したこともあって、科研費による調査が開始される半年前から整理に着手していた。

以上が、資料毎の文書の整理と調査の方針、方法であるが、調査開始前後に次々と緊急に保管や整理を必要とする資料の発見によって調査研究方針が変更している。

４．研究成果

本研究の研究成果については、資料毎に、資料整理の経緯と状況、および、その資料的価値について報告しておきたい。

（1）まず、明治期の地籍図関係資料である。明治 36 年沖縄県臨時土地整理事務局作成の地籍図は具志川間切全 121 字のうち、約 94%の 114 字の地籍原図が残されている事が判明した（破損の大きいものも含む）。保管状態は極めて悪く、大きなビニール袋４つにそのまま入れられており、地籍図の状態も極めて悪く劣化が進んでいた。この地籍図については、かつて京都大学による科学研究費調査によって地籍図名称の目録が作成されていたが、その後、地籍図そのものが所在不明となっていた。久米島の旧具志川村、旧仲里村が合併し久米島町になった後、役場関係資料が久米島博物館に保管されることになったが、その一部であったものと推定される。この時以降保管場所が不明となったと思われる。前回の目録は明治 36 年作成の地籍図に限定（一部例外含む）されていたが、今回は地籍図原図の青焼き、また明治 41 年以降の市町村制施行により「間切」を「村」にまた「村」を現行の「字」に変更した後に修正が加えられたとみられる地籍図の原図（ごく一部）、およびその青焼きなども整理対象資料に加えた。これはその劣化状態を鑑みて原図と同じく保管し、防虫処理を施した後、目録作業に着手した。今回、目録化した資料は地籍図関係資料 237 点となった。目録には地籍図の基本情報ほか、大きさ、劣化の状態、補強用裏紙（役場資料の反古紙）の種類なども記載した。

地籍図資料は断簡となっているものも十数点存在しており、これを特定の字に同定する作業には相当の時間を要した。断簡に記載されている隣接の字名や地形の形から推定した地籍図も 8 点を数えたが、同定作業はほぼまちがいないものと思われる。

こうした、字名不明の資料は写真撮りを綿密に行って、現地調査を終えて帰京後写真から字名を判断することになった。

これらの資料は、今回、地籍図の保存状態、劣化程度、寸法、裏紙となった役場の罫紙（反古紙）の種類なども記録し、二重にした中性紙袋に保管する事としている。

また、目録の備考欄には記入しておらず今後の調査検討に委ねたいことであるが、久米島には地割制を象徴するいわゆる短冊形の地籍地形は全くと言って見当たらなかった。また、水田と畑地などの区別が旧具志川間切ほぼ全域で確認できることになり、明治期当時の灌漑システムについても先行研究が残されており当時の地域の農業形態を復元検討できる可能性が出てきた。

また、地籍図のうち、集落地図、山間の地図などには現在不明となっている拝所、井戸、などが記載されており、今後の調査に役立つ資料となっている。

目録化した資料は 237 点を超えているが、しかし、これ以外に目録に含めなかった大正、昭和期の青焼き地図資料、また戦後新たに作成されたと推測される地図資料など、関連資料がその倍以上も保管されている。地図を筒状に巻き、木箱等に入られ、明らかに別途保管されていたため、時間の関係で今回の保管作業、目録化からは除外した。しかし、こうした相当数の地図資料が手つかずで残されていることには注意を喚起しておきたい。

これ以外にも、明治期地籍図作成前後と推定される、手書きの地図資料等、検討を要する旧具志川村の資地図資料類が 30 点ほど残されているが、こちらは全くの手つかずだが、とりあえず防虫処置を行った上で中性紙袋に保管をしている。

なお、これらの資料のサイズが大きかったため全面写真撮りは時間的にも困難であった。そのため、1 枚の地籍図を何枚かに分けて写真撮りを行い、保管袋ごとの番号を振った。これらのデータはＨＤＤにデータ保存し、現物の地籍図資料とは別に、久米島博物館にも保管をお願いして

いる。この際、裏紙となった反古紙については、写真を残していない。反古紙として用いられたのは、主に大正期の村税関係徴収簿控え等で、個人情報が記載されているためである。
　最後に、これら地籍図資料の取扱であるが、現段階では久米島博物館の判断により資料閲覧は許されていない。研究目的での閲覧を希望される場合には一度連絡をお願いしたい。

（2）仲村渠昌清資料については、まず、
①模合（頼母子講）資料については、当初、琉球大学名誉教授の仲地宗俊氏とともに、内容分析に当たる予定であったが、こちらも前述のように、地籍図資料の発見によって、時間的に難しくなった。そのため、元資料の目録化のみ行い、分析は今後の課題とした。
　もともと、仲村渠昌清資料約９０点のうち約３分の１が模合や経済資料である。出納簿や、当時の日用品販売価格など、また同人が役場書記であったことから、一部村税関係資料の写しがのこされている。正確な点数をあげられない理由は、仲村渠昌清氏の記述が、自身の日誌に出納簿を記入し、そこに部分的に模合記録を記載していたり、ごく僅かの日記類に模合記録がメモ書きされていたり、また、すでに一度記した内容を、独自に整理してまとめられたりしており、記述が分散、錯綜しているために資料点数を確実に提示できないためである。それでもそうした、記述の濃淡、部分的記載も含めて点数をあげるとしたら３６点となる。
　もっとも、模合が途中で破綻し担保とした土地を競売にかけ処分した経緯に関する裁判記録、弁護士依頼文書など、詳細なたまとまった資料などもある。
　仲村渠昌清資料の模合関係資料は情報が錯綜しているが、時系列的に情報を並べ直してゆく必要があるが、これを行うには相当の時間を要するものと思われる。
　一応上記の 36 点については、資料毎に、記載されている時期などを明確にした目録を作成しており、今後時系列的に情報を整理し直す必要がある。
②つぎに紬関係資料であるが、前述のように久米島博物館の宮良みゆき氏に全面依頼した。宮良氏によれば、おそらく近世に成立したであろう墨書き資料 1 点はこれまでの他資料との比較が可能となるが、こちらについては、久米島博物館の所蔵資料との突き合わせが必要となり、むしろこうした資料との突き合わせの後に検討すべき資料として、今回の分析からは除外することになった。
　本資料のうち特に重要なものは、大正から昭和期にかけての番号付紬の名称にかかわる、まとまった聞書資料 2 点であり、このような資料はこれまで発見されていなかったようである。
　もちろん、鎌倉芳太郎の『鎌倉芳太郎資料集』、辻合喜代太郎『久米島紬』などすぐれた先行研究はあるが、番号付紬の聞書はなく、資料的価値は高いとみてよい。特に、番号付紬の現地での“俗称”が記載されている点などは今後も検討に値する。先行研究や比較資料が存在せず、資料そのものの価値はいうまでもなく重要であるが、比較に耐える資料や情報に乏しいため、いま少し間口を拡げた民俗調査を必要としている。それは色名、柄などの俗称方言などの補充の民俗調査であり、資料整理に今ひとつ時間を必要としている。翻刻はすでに終了しているが、報告書のまとめとしては、令和２年度中を予定している。
(3)山里家資料については、久米島の最高神女である君南風（チンベー）の君南風殿内（屋敷）の戦前の建て替え記録資料の翻刻報告を目的として整理を行った。それまでの沖縄式の祭殿構成から、本土の本殿、拝殿方式の神社形式に立て替えており、また一般にオタカベと言われる祭礼の際の神への感謝の言葉の祝詞化された文書が残されている。もっとも、戦後実際に祝詞は用いられていなかったようである。しかし、戦前のこの時から君南風の拝礼に関しては 1990 年半ばまで二礼二拍手一礼形式に改められて継続していた。これら資料はいわゆる本土化、戦前の皇民化教育の中にあって行われていた一村一社運動の貴重な記録であり、拝礼形式はその残滓ともいえる。
　こちらは設立趣旨の下書き、海外移住者にまで通知連絡をして建て替えや鳥居建立に伴う費用の浄財を集めた記録が残されている。実際にこの際に建立された鳥居にはペルー移住者からの浄財による旨が鳥居の柱に記録されていた。これらの資料はまずは写真撮り、目録化を目的とし、主要な資料については翻刻を行い報告書に掲載の予定である。
（4）山城家資料は、明治 20～24 年の具志川間切仲地村（字）から久米島番所への願文の控えの整理と翻刻を行った。
　役場罫紙に墨書きされたこの文書は、もともとは二つ折りで綴られていたと考えられるが、発見された際には、表紙もなく、二つ折りとなった罫紙の束となっていた。束は二つあり、50 枚および 10 枚前後であった。特に 10 枚前後言うのは虫食い状態がひどく、正確な枚数を確定することができなっためである。
　内容は非常に多岐にわたり、仲地村の「村所」に保管されていたとする明治一四年以降一九年度までの諸帳簿類の目録、困窮救助米の請願書、出産・死亡届、西銘小学校経費・教員に関する申請書、入校願、退校願、仲地村の生産物・生産高・価格報告、伐木願、種痘の状況報告、仲地村人口・戸数表などが記されている。

内容は雑多なものではあるが、基本資料として、あるいは史料批判として有用になる可能性もある。
(5)上記の資料中には年月日が明記された出来事などが記されている場合があり、これを編年化してゆくことで、久米島の旧具志川村側に限定されるが、久米島年表が作成できる。仲村渠昌清資料中には、島尻郡長であった齋藤用之助の功績に関する年表が記事として掲載されている。
　この点に関しては、本研究で取り上げた資料以外に、教育関係資料が有用である。久米島尋常高等小学校の日誌が明治 38 年より残されて、久米島博物館に保管されている。学校行事以外には有用な記載は少ないが、小学校が港近くにあったためか船舶の出入港についての記載や、役場とのやりとりが一部記載されている。
　また、教育関係雑誌では明治 45 年に『島尻教育部会二十五周年記念誌』が刊行されており、久米島関係者に言及されることもあって確認が必要である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 小川順敬	４．巻 18
２．論文標題 資料紹介　山城家資料　明治二〇年代の久米島具志川間切仲地村申請書・願書控	５．発行年 2018年
３．雑誌名 久米島博物館紀要	６．最初と最後の頁 97-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 小川順敬
２．発表標題 仲地・山里のまつりと君南風
３．学会等名 久米島博物館 友の会 講演
４．発表年 2015年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	仲地　宗俊 (NAKACHI SOUSHUN)		
研究協力者	宮良　みゆき (MIYARA MIYUKI)		
研究協力者	新垣　裕之 (ARAKAKI HIROYUKI)		